



1 大阪マラソンとスポーツ観光について

<竹下隆議員>

大阪マラソンは、定員3万人に対して15万人以上がエントリーする人気の高い大会である。今年10月26日(日)に開催される第4回大阪マラソンのランナー募集が、いよいよ来月4月3日から開始される。

私は、第1回、第2回大会では、沿道からのボランティアとして大会に携わってきた。昨年開催された第3回大阪マラソンには、ランナーとして初めて参加させていただいた。

大阪の街のど真ん中を走る爽快感は、何とも言えず、他では味わえないものである。沿道からの温かい声援は何よりの励みとなり、おかげさまで何とか完走することができた。ランナーの目線で見ると大阪の姿は、今までに無く新鮮に映り、大阪の街の素晴らしさを再発見すると同時に、この感動をもっと多くのたくさんの人々に味わっていただきたいなと思った。

大会の参加者の内訳をみると、大阪府内が4割、その他が6割と府域外からの参加が多くなっている。また、海外から参加されるランナーも増加傾向にあると聞いている。大阪マラソンは、大阪の魅力国内外の皆さんに知ってもらい、格好のイベントであり、府域外からさらに多くの人々を呼び込むことで、街の活性化や経済波及効果に資するものではないかと考えられる。特に海外からのランナーを増やすことは、海外誘客に取り組む大阪府の観光施策にも合致しているのではないかと。

大阪へ来られる方に、マラソンを通じて大阪の魅力を満喫してもらえれば、そのことが、今後リピーターとして、また、大会に参加してくれることにつながっていくと思う。大阪の魅力を伝えるためには、大会を支える

ボランティアや沿道観客が一体となって盛り上がることも重要ではないかと考えられる。

そこで、今後、大阪マラソンは、誘客や大会の盛上げといった観点でどのように取り組んでいこうとしているのか、府民文化部長の考えを聞かせください。

<府民文化部長>

第3回大阪マラソンであるが、ランナー3万人、ボランティア1万人、沿道観客者数が125万人と、国内外から多数の方に参加していただいております。スポーツの競技大会の粋をこえて、大阪の新しい祭りとして、定着してきているところである。

とりわけ第3回大会では、海外からのランナーが前年に比べまして約2倍の1366人と、大きく数字を伸ばしており、今後とも、大阪観光局とも連携をとりながら、現地旅行会社への大会PRを強化するなど、アジア地域を中心に大阪マラソンへの参加促進を図り、海外への魅力発信にもつなげていきたいと考えている。

また、大会をさらに盛上げていくためには、沿道で応援いただいている方々が一体となって大会を楽しんでもらうことが重要と考えている。

例えば、大会当日、コース沿道において、歌やダンスなど様々なパフォーマンスでランナーを応援する「ランナー盛上げ隊！」には、第3回大会では、107団体、2251名もの参加者を得て、大会を盛り上げていただいた。

また、大会の前日や前々日には、ランナー受付をインテックスで行っているが、これとあわせて、3日間にわたり大阪マラソンエキスポを開催し、スポーツメーカーなどが出展するイベントブースや、大阪の食を紹介するコーナーなどがあり、約12万人の方々にご参加いただいた。

今大会からは、フェイスブックなどを活用し、大阪ならではのユニークな応援スタイルの紹介など、大阪マラソンの良さを発信するとともに、ランナーもボランティアも観客も一体となり感動を共有し、「参加してよかった」と実感できる大会となっていくように取り組んでいきたいと考えている。

<竹下隆議員>

運営については、まだまだ改善の余地もあります。例えば、ランナーのトイレの数や配置、男女別、和式洋式、また、観客では、歩行者の関係、車いす、自転車のコースの横断箇所や方法などである。また、ボランティアの扱い方、そして、地域住民の、最も大事なことです。地域住民のストレスの軽減もよろしく願います。



2 離職した女性の再就職支援について

<竹下隆議員>

知事の府政運営方針説明の中でも少し触れられていたが、今後到来するであろう生産人口の減少を見据え、女性が活躍できるように支援するとあった。

府は、昨年 9 月に女性職員で構成する庁内プロジェクトチームを立ち上げ、女性の就業支援に取り組む姿勢を明確に打ち出したところである。

私も、かねてより、能力のある女性が、その力を社会で発揮する機会に恵まれない状況は問題だと考えていたところであり、府のこうした取組みには、期待をしている。

特に、看護師や保育士などの国家資格や一定の技能が求められる業務など、有能な人材が求められる分野においては、人材を確保するのが容易ではないと思う。

仕事を辞める理由は子育てや介護など様々であろうし、また、再就職を阻む要因についても千差万別だと思う。そうした女性たちが仕事へ復帰するためのハードルを下げるような仕組み、例えば、研修や訓練があれば、女性の就業支援として大きな意味をもつことになるのではないか。

府では、庁内プロジェクトチームの活動を通じ、そうした女性の現状をどのように捉え、どんな施策展開を考えているのか、商工労働部長に伺う。

<商工労働部長>

府内には、子育て等の理由により離職し、現在働いていないものの、「再び働きたい、そのためのスキルアップもしたい」という思いをもつ、意欲的な女性が数多くおられる。庁内プロジェクトチームが行った実態調査からも、30 代非就業女性の 47.3%が「将来条件が整えば働きたい」と答えているところである。

しかしながら、仕事に復帰するにあたっては、長期間現場を離れていたことによる不安を解消し、保育や介護等の心配をしないで済むよう家庭環境を整えねばならないなど、様々な課題があると考えている。

そのため、府には、雇用創出基金事業を活用し、出産や育児、転職等で現場から遠ざかっている看護師や保育士などの有資格者や、経理事務やIT技術者などの豊富な実務経験を持つ方を対象に、最新の専門知識を身につけていただくとともに、実務訓練を通じて職場復帰への不安を解消し、企業への再就職を支援する事業を行っているところである。

こうした取組みが「もう一度働きたい」と考える女性の就業拡大につながっていると考えており、今後このような取組みを進めていく。

<竹下隆議員>

今後、少子高齢化社会をむかえ、現役世代の減少が心配されている。せっかく培ったスキルを埋もれさずことなく、社会で活用してもらえる、しっかりしたしくみの構築をしてください。情報を求めている府民に対して、わかりやすい周知・啓発をよろしく願います。

3 あいりん総合センターのあり方について

<竹下隆議員>

あいりん総合センターは、私の地元の浪速区に隣接する総合センターであり、昭和45年に国、大阪府、大阪市、雇用促進事業団の4者により建築された複合施設で、1階から4階までが労働施設、北側5階から8階までが病院、南側5階から13階までが市営住宅となっており、地域では大変目を引く建物である。

同センターは、建築後43年が経過し、建築当時と比較するとセンターを取り巻く環境は大きく変化している。そのため、大阪市が発表した西成特区構想においても、センターの今後のあり方について議論すると聞いている。

あいりん総合センターの今後のあり方について、府は関係機関と協議中ということであるが、その協議状況と今後の方針について、商工労働部長に伺う。



<商工労働部長>

あいりん地域では、地域の日雇労働者は減少し、また高齢化が進展するなど、同センターを取り巻く環境は、建築当時と大きく変化をしている。

こうした中で、大阪市は平成24年10月に「西成特区構想有識者座談会報告書」を発表し、西成特区構想の具体化にあたっては、地域の意見を踏まえ、地域主導の形で進めていくこととされている。そのため、新今宮駅前の再開発やあいりん総合センターなどの今後のあり方について、地域住民などが参加する「エリアマネジメント協議会」という検討の場が、今後設置される予定である。

なお、大阪市は、あいりん総合センター所有者である行政機関と協議するため、有識者を交えた検討会議を昨年12月に設置をしている。府は、この検討会議に国と並んで参画し、あいりん地域における日雇労働者を取り巻く状況の変化を踏まえながら、あいりん総合センターのあり方について検討していく。

<竹下隆議員>

ただいま、あいりん総合センターのあり方について、行政だけでなく地域の意見を踏まえながら検討が進められるという説明があった。

あいりん総合センターの正面にある新今宮駅は、JRと南海で関西国際空港と直結している。特に最近ではLCC(ローコストキャリア)を利用した海外からの旅行客が、数多く新今宮駅を乗り降りするようになっている。

また、あさって(3月7日)グランドオープンする「あべのハルカス」も新今宮駅から歩いて10分ほどの距離にある。

あいりん総合センターの今後のあり方は、新今宮駅周辺の西成区や浪速区のまちづくりといった観点だけでなく、この地域が大阪の新しい拠点となる可能性を秘めていることから、大阪全体のまちづくりにとって大きな意味を持つと言える。

そのため、ただ今答弁があったが、あいりん総合センターのあり方については関係機関と十分連携を図りながら検討を進めていただくよう要望する。

4 あいりん地域の取り組みに関する周辺地域への影響について

<竹下隆議員>

わが会派の代表質問の知事の答弁でも少しあったが、あいりん地域は覚せい剤の密売やゴミの不法投棄、違法な露店販売の問題により、残念なことに「あいりん地域は治安が悪い」というイメージが根強くある。これらを払拭するため、「5か年計画」で、あいりん地域を中心として環境整備を強力に推進するとのこととあったが、これは、我が会派がこれまで



も主張してきたとおり、あいりん地域が抱える諸課題を解決していくことで、ひいては大阪全体が抱える課題の解決につながる好循環が期待でき、大いに評価している。

しかしながら、あいりん地域の取組を集中的に進めていく中で、万一、周辺地域の環境が悪化することとなれば、これは、望むところではない。

とりわけ、あいりん地域と道路一本また線路一本で、隣接する浪速区の住民は、「薬物事犯やゴミの不法投棄が今以上に増えるのではないか」との悪い影響を危惧している。

現に、そういった浪速区の住民の声が直接、私の耳にも届いており、また、浪速区長や浪速警察署長に対しても、あいりん地域の取組に呼応して、浪速区も対策を推進してほしい旨の要望を行っている。

このような住民の不安な声を受け止めていただき、今後あいりん地域の取組を進めていく中で、あいりん地域を西成区の問題と、とらえずにあいりん地域を中心とした周辺の影響も把握し、同様に対応していただきたいのですが、知事はいかようにお考えか。

<松井知事>

あいりん地域を中心とした環境整備は、大阪の真ん中で、薬物や不法投棄ごみなどの問題が顕在化していることに対応することによって、大阪のさらなる成長につなげていくということで、集中的に取り組むこととし

た。

課題が隣接地域に拡散していく、今、議員が示していただいた話のように、周辺に、そういう悪い影響が及ぶのではないかとすることは、私の本意ではない。これは、周辺に悪い影響が及ぼさないように、あいりん地域と一体的に環境整備をしていくということは当然のことである。

浪速区の方々が悪い影響を危惧されているとの話を聞き、先日、府警本部長に、一体に配慮をお願いするという事を申し上げた。

さらに大阪市とも連携を強化し、5カ年の計画の中で、取組みの進捗や隣接地域への影響も踏まえて、対象とする箇所や内容も柔軟に対応していく。

<竹下隆議員>

知事、有難うございます。

とりわけ、新聞記事にあった街頭防犯カメラ、新設32台、更新13台、合計45台をあいりん地域に設置、という処に注目されている。

浪速警察署管内側のカメラ設備の手薄な場所での薬物の取引、所持、使用が増えるのではないかと、本当に不安に思っている。地域住民の不安解消、安全安心の日常を提供できるように、西成警察署管内、浪速警察署管内の別なく、地域事業にあった対策をしていただくようお願いする。

警察本部長よろしく願います。

私が在住する浪速区大国地域は、いつしか大阪を代表する違法風俗店街として知られるようになった。バブル景気にワンルームマンションが乱立し、バブル崩壊後、空き室が増え、家賃が下がり、交



通の利便性の良さがあったか、いつのまにか、賃貸マンションを使った違法風俗店が住民の知らないうちに増えてきた。かつては、住民と商売人が行き交う街であったが、見慣れぬ人が増え、不法駐車、不法投棄。瞬間に街の風貌は変わってしまった。パジャマ姿で買い物に出かける女性や、強面の方、そして、地域の女性が夜間歩いていると、いろんな声をかけられ、また、子どもを狙った痴漢行為なども、よく耳にしたところである。コンビニのトイレや公園や子供たちの通学路にも、使用済みの注射器が捨てられていた。家庭や学校では、落ちていた注射器には触ってはいけません、拾ってはいけませんと教えなければいけませんでした。警察官もパトロールを増やし、取り締まりを強化していただいたが、状況はさほど変わらなかった。あまりのひどさに、連合会長を中心に住民が立ち上がり、「自分達の街は自分達で守る」の号令のもと、警察行政とともに、夜間パトロールの強化、200名を超える合同パレード、また、登下校の見守り、違法風俗店1軒1軒に嘆

願書を警察官同行で持参。徹底して排除活動を行い、住民のみなさんの苦労もあって、ほぼ排除し、元の街を取り戻すことができた。今でもそういった活動は続いている。一度、街の雰囲気が悪くなると、ほっとくと、どんどん進んでいく。そうなる前に、あいりん地域を含めて、浪速区、西成区が一緒になって、地域を安全にしていければなと思っている。西成、浪速がよくなれば、必ず大阪の経済成長にもつながる。どうか、議会の先生方も、今後の動向を気にかけてください。

5 なにわ筋線について

<竹下隆議員>

戦略4路線の一つであるなにわ筋線について伺う。

先の我が会派の代表質問において、1月策定の公共交通戦略で位置付けられた戦略4路線について、「知事の言われる「既存ストックの組み替え」により、具体化を進めるべきである」と申し上げたところである。

私自身、大阪が首都圏と両輪で日本の成長をけん引するためにも、この4路線の具体化は是非とも必要だと考えている。

なかでも「なにわ筋線」は、関西国際空港から梅田や新大阪といった鉄道拠点をつなぐことで、国内ネットワークのアクセス性の向上を図るものとされており、なにわ筋線が実現すれば、現在1時間程度かかっている関空・梅田間が30分台後半代までに短縮する可能性があると考えられている。



関西国際空港がアジアの主要空港と比べると、都心とのアクセス時間が約2倍かかるなど、都心部へのアクセス性は劣っていることから、なにわ筋線の早期の事業化が望まれる。

府は、大阪市や事業者とようやく検討のスタートを切ることとなったが、今後、どういった内容で、またどんなスケジュールで検討されようとしているのか、なにわ筋線の果たすべき役割と併せ、都市整備部長に伺う。

<都市整備部長>

なにわ筋線は、新大阪から北梅田を經由し、難波方面までを結び、そこから、JR阪和線や南海本線を介して、関西国際空港へとアクセスする路線で、関空アクセス強化に不可欠な路線である。

また、関空アクセスの強化だけでなく、大阪南部地域から、国土軸との結節する新大阪や、大阪・うめきたを介し、日本各地へ移動範囲の広がりを生み出すとともに、地下鉄中央線や京阪中之島線など、既存鉄道との結節により都市内の鉄道ネットワークを強化するなど、沿線をはじめとする地域の活性化や観光振興に寄与する路線として、大阪・関西の成長に極めて重要な役割を果たすと考えている。

既に、大阪市や鉄道事業者とともに準備会合を開催し、今後の進め方などについて協議を進めており、平成26年度には、事業主体や事業スキーム、設置駅などについて、検討を進めていく予定である。

今後とも、なにわ筋線の重要性を踏まえ、早期の事業化判断に向けた検討を進めていく。

<竹下隆議員>

大阪市内の鉄道インフラは、大阪府域の鉄道とのジョイントにより、より力を発揮するもので、利便性向上により、成長戦略の一翼を担うものである。とりわけLCC利用者が増えている関空であるが、LCC利用者は、ほぼ鉄道を移動手段とするはずである。新大阪駅まで一直線でつながる鉄道は、利用者には便利で、わかりやすく行動しやすい。市内の鉄道ジョイントによるが、いっそうの利便性向上となり、大阪の成長のため、早期実現をよろしく願います。

また、料金面におきましても、先だってありました、森議員からありました「ポッキリ」の値段でいけたら、お願いできたらいいと思っている。

最後になりますが、4、5年前まで、正直、私は政治家を目指したわけではありませんでした。親のやっていた小さな商いを引き継ぎ、近くのPTAや地域活動をやっている普通の庶民でした。大阪市青少年指導員連絡協議会副会長の時に、大阪府青少年健全育成審議会に委員として参加することがございました。審議会の議論が進み、要望、提案などを議論するなかで、座長である某大学の法学部の教授とのやり取りのすえ、その座長は、提言または条例というものは、そんなに簡単にできるものではありませんよ…とおっしゃられ、そんなことは分かっていますが、今まで何のために議論したのか、議論のための議論だったのか、結論なき議論をしていたのか、と心の中に、何かが芽生えたことを覚えています。何とかせなあかん、何とかしやなあかんと、その後、地域の皆さんの後押しや、地域の先輩議員の勧めもあり、今に至ります。未だ、プライベートは、地域の方と行動を共にしています。初心を忘れず、住民目線で、何のために、誰のために、また、議会人として、結論や成果を、結果を引き出す議論を求めて行動をしていきます。府民の幸せと、大阪の発展を祈念致しまして一般質問を終了させていただきます。

御静聴ありがとうございました。